

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.188

8月7日 (火)

会員限定WEB懇談会

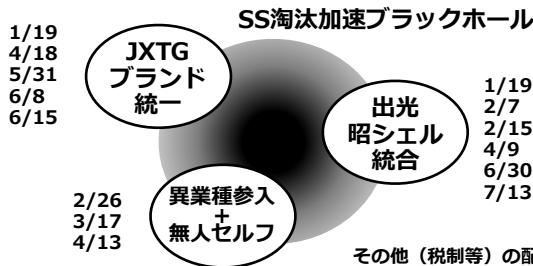
これから会員になられても
参加いただけます

SS淘汰加速ブラックホールとは？

- JX系、TG系共に必聴
- 出光、昭和シェル基本合意の変化が今後の行方を示す - 行間を読んで解説します -
- 異業種参入 + 無人セルフ解禁：2050年電動車100%：2030年1万SS！へ淘汰
- 12:30 受付 ● 13:30 懇談会 ● 17:00 懇親会
- 中澤WEB会員限定（定員40名） ● 参加費：5,000円（懇親会費込み）
- 会場：日本教育会館（808会議室）
- 完全オフレコ環境（動画・音声の収録はありません） ● あらゆる質問に回答します

リアルタイム解説

これまでの動画配信



- 同時進行は必然
- 10,000SSまで淘汰か？
- シェルも茨の道
- 米屋、酒屋より厳しい
- 今から対策を！

その他（税制等）の配信：2/7, 3/17, 4/2

中澤WEB 会員募集中

中澤情報を得る
唯一の手段

- 年会費
（一般会員） 50,000円 / 1ユーザー（税別） （特別会員） 2ユーザー以上
※元売・商社・団体様は特別会員をお申し込みください
- 年会費適用期間
入会された翌月からカウントして1年間 例）2018年7月20日入会の場合 ⇒ 2019年7月31日まで
- これから中澤WEB会員になられても、全てのバックナンバーを視聴可（レジメ付き）
- HPからのご登録後、24時間以内に、ログイン情報をショートメールでお送りします。
- お申込は（<http://nakazawa-cpa.net/members.html>）中澤公認会計士事務所HPから

会員向けメルマガの
一部を一般公開

2050年電動車100%：2030年10,000SSへ淘汰へ (1)

※中澤WEB会員専用サイトでは、全編公開されています

7/24 経産省 「自動車新時代戦略会議中間整理（案）」公表 ※自動車産業及び関連産業に関する報告書

7/5 エネ庁 「次世代燃料供給インフラ研究会 報告書」（最終確定版）公表 ※SSに関する報告書

- SSのガソリンのほぼ全てが、自動車への給油ですので、両報告書は非常に密接な関係があります。
- 2030年までに英国・中国は、EV100%とすることを決めています。
- 日本は、2050年までに電動車100%になるとのことです。

電動車：報告書では (xEV) = EV (BEV) + HV (HEV) + PHV (PHEV) + FCV (FCEV)

販売比率

	2017	2030	2050
従来車	64%	30~50%	0
電動車	36%	50~70%	100%

何故 3万SSが 1万SSへ 淘汰？

- ガソリン車の燃費は、HV、EVに負けないように、飛躍的に向上しつつあります。ガソリン車の延命には、発・送電ロスの向上以上の燃料効率の向上が必須ですからメーカーは必死です。
 - EVは、電池等の容量が全個体電池の開発等で飛躍的に向上すると考えられています。
 - HVは、ガソリンエンジンの飛躍的な燃費向上と電池容量の飛躍的向上の両方の恩恵を受けます。
 - EVは、発電所によるロス + 送電ロスが加わるため、必ずしもHVより優れているとは言えません。
 - 2017年でもガソリン車を [100] としたCO2排出量は、HV [52] に対して、発・送電ロスで中国は [62] インドは [96] となっております。
- <2030年のガソリンの減販比率> <2030年のSS淘汰の比率> を推計しましょう。

一般公開はここまでです。中澤WEB会員は専用サイトへログインして、続きをお読みください。